

対 談 教育現場におけるジェンダー平等について



キーワード 1 教育現場における男女共同参画

樋口：女の子の水色ランドセルが珍しい時代は終わりましたね。
中林：女の子は赤、男の子は黒と決めつけてはいけませんよと言っていた時が嘘のようですが、まだデザイン等は男女で違いが見られますよね。
谷：教育現場では、徐々に男女平等になってきていると思いますが、高等教育、特に大学においては、まだまだのようです。
中林：医学部の入試における女性への差別的な扱いなどです。若い頃の教育のみならず、高等教育においても性別に関わりなく、本人の望む教育が受けられるようになるといいですね。

2つのキーワード

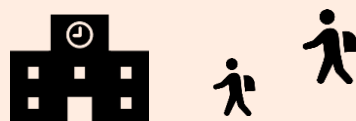
- 男女共同参画
- 多様性の尊重

キーワード 2 教育現場における多様性の尊重

谷：現在の教育現場においては、男女差別に留まらず、LGBTQのようなセクシャル・マイノリティの子どもたちへの配慮が求められています。



中林：更に性に関わるだけでなく、人種や障がいの有無による差別もなくなるといいですね。



対 談 者

・東郷町男女共同参画審議会 会長 中林 久子

平成 20 年から東郷町男女共同参画推進協議会委員を務める。
平成 23 年から東郷町男女共同参画審議会会長を務める。

・東郷町男女共同参画審議会委員 谷 直衛

平成 28 年から東郷町男女共同参画審議会委員を務める。
平成 20 年から 28 年まで東郷町教育長を務める。

・東郷町 教育部長 樋口 美紀

昭和 62 年に東郷町役場入庁。平成 31 年 4 月から現職。



樋口：現在の教育現場が抱える課題は、人権の尊重や男女共同参画など多種多様であり、きめ細やかな対応が求められています。本町では、子どもそれぞれが持っている力を尊重しながら、子どもたちの個性を伸ばしています。そして、社会が「男は、女は、こうあるべき」といった性別役割分担を押しつけないことが大切です。

谷：私たちの目標は、多様性の尊重を意味している、ダイバーシティを推進することですね。

そして、ありのままの自分でいられる社会にしていくことです。

中林：すべての人がありのままの自分でいられる社会を実現することは、男女共同参画社会の実現につながりますね。

県内町村で初めて

イクボス研修・イクボス宣言を行いました。

10月30日、イクボス研修を行い、町長など町職員と町内企業の代表者の50人が参加しました。参加者はイクボス提唱者のNPO法人ファザーリングジャパン代表理事の安藤哲也氏による研修を受けた後、安藤氏立ち合いのもと、イクボス宣言を行いました。

イクボス宣言書の内容（要約）

- 1 職員一人一人が仕事と生活の両立を図れるような職場づくりを目指します。
- 2 チームワークで業務を遂行します。
- 3 効率的な仕事の改善を行います。
- 4 自らも人生を楽しみます。

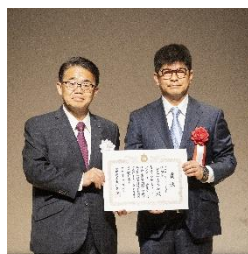


町内企業の(株)喜多村が県から表彰されました。

平成 31 年 2 月、町内企業の(株)喜多村が、県の「ファミリー・フレンドリー企業奨励賞」を受賞しました。

県では、従業員のワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組む企業を「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」として登録しており、その中から、他の模範となる優れた取組を実施している企業を平成 19 年度から毎年知事が表彰しています。

(株)喜多村は、過去 3 年連続で 8 割を超える年次有給休暇の取得を実現したことや、男性社員に対して育児休業の取得を推奨し、平成 28～29 年度に 2 人が育休を取得したことなどが評価され、表彰されました。



町民LGBTセミナーを開催しました。

12月21日、性の多様性について考えるLGBT町内セミナーを開催しました。

講師のNPO法人ASTA代表理事松岡成子氏からLGBTの基礎知識についてご講義いただき、性のあり方やLGBTの現状、性的マイノリティを含めた全ての違いに対して味方でいられる人「ALLY」について、理解を深めました。グループワークも行い、複数のLGBTの方と実際に対話をする中で性的マイノリティについて考える機会となりました。

講座には町民 30 人が参加し、「LGBTの方の生の声を聞くことができて貴重な体験ができた」「今まで無意識に差別的な考えをしていたことに気付かされた」などの感想がありました。



おすすめ図書

女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと

西原 理恵子

ベストセラー26万部突破！「王子様を待たないで。お寿司も指輪も自分で買おう」——胸にすんと落ちるメッセージは、血の通った経験則にもとづく幸せの極意。

これからの時代を自立的に生きるための気づきが満載です。

(参照：KADO KAWA ホームページ)



僕たちのカラフルな毎日 ～弁護士夫婦の波瀾万丈奮闘記～

南 和行、吉田 昌史

大阪で法律事務所を営む"弁護士夫婦"の出会いからこれまでの歩みを、ユーモアたっぷりに綴ったエッセイ。LGBTをより理解するための副読本として、あるいは、ひとつの純粋なラブストーリーとして楽しめる一冊です。

(参照：旅と暮らしの出版社ホームページ)

